JCHO
二本松病院
二本松市成田町1-553
TEL.0243-23-1231
FAX.0243-23-5086
http://nihonmatsu.jcho.go.jp
発行者：あゆみ編集委員会

今年１年を振り返って

副院長　柳沼　健之

今年は冬の訪れが例年に比べて早く、秋を飛び越えて真冬並みの寒気が日本列島を覆ってしまいました。もう年末。患者様・ご家族様方をはじめ地域の皆様、病院関係の皆様方、今年１年間、JCHO二本松病院をお支えくださいまして、心より感謝申し上げます。

当病院はJCHO病院へ移行して４年目を迎えました。おかげさまで、新体制が安定しつつあり、今年一年間、一日一日をみればそれほど大きな変化もなく経過しています。

そんな中でも少しずつ変化がありました。人事面では前総看護師長をはじめ、ベテランの職員が多数定年を迎えました。しかし、新卒の薬剤師をはじめ新しい職員が多数入職し、病院に新しい風も吹いております。またＪＣＨＯになり、他病院との人事交流も多くなりました。「あれ、見たことが無いような職員が働いている。」とお感じになることもあるかと存じます。人間の身体でもそうですが、「新陳代謝」が行われて、組織は年々活性化していきます。

病院の内部でも組織の改編がありました。特に「地域包括ケアセンター」の立ち上げは、今年の変化を物語るものです。私が当院に赴任した1990年（平成2年）には、入院患者の平均年齢は68歳でしたが、2016年（平成28年）では77歳と約10歳高齢化しております。高齢者人口は今後とも増え続けます。高齢の方々が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるようにサポートしていくことが「地域包括ケア」の主目的であり、「地域包括ケアセンター」はその中核となる部門です。超高齢化社会に備えて、病院も対応してまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

第3回 「JCHO地域医療総合医学会」に参加して

～JCHOによる新しい地域医療の覚醒～

11月17日(金)、18日(土)と学会に参加してきました。その中で将棋の羽生さんの特別講演があり、人間と人工知能の話をしてくださいました。「人間は、過去を振り返ることができるのです。」との言葉がとても心に残っています。過去を振り返り、より良い看護ケアを提供できるように、これからも「学び」を大切にしていきたいです。

貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございました。

看護師　渡辺　由紀

様々な分野での発表を聞くことができ、各施設がその地域性を生かした活動や取り組みを実施していることが学べ、有意義な時間を過ごすことができました。当老健のリハビリテーション分野でも取り入れてみたい内容の演題もあり、早速スタッフとの共有を図りたいと考えております。また、自身の発表では今後の研究をするうえでの貴重な質問や指摘もありました。発表にあたり準備することでも大変勉強になる時間でしたが、発表を通してディスカッションさせていただけたことは、さらに発展して考えることができる機会となりました。今回学んだことを活かし、そして共有することで臨床に役立てることができるよう取り組みたいと思います。

理学療法士　高見　奈津子

昨年とは違い小雨ではありましたが、ほぼお天気に恵まれた学会でした。今回は、講演「身体の重心の正中位置の練習が転倒予防と歩行の安定性に及ぼす効果について～訪問リハビリならではの工夫を交えて～」を代読するという仕事を仰せつかりました。発表後には、練習方法の器具をどのように決めていったのか、その経緯についての質問がありましたが、無事終了することができました。

また、全国から参加されたJCHO職員の方々の熱い発表と質疑を聞くことができ、患者様のための医療の効果・課題などを知ることができました。その中から二本松病院の医療に活かせるよう職員に伝えていきたいと思います。学会参加という機会を与えて頂きありがとうございました。

リハビリテーション科　石井　照子

私は「MRIの静音化技術を用いた撮像法の検討」という題で発表させていただきました。院内学会などで練習を重ねてきましたが、このように全国規模の大きな場で発表をするのは初めてのことで、とても貴重な経験となりました。幸いにも第１回JCHO学会に発表補助として出席する機会に恵まれていたので、ある程度のイメージを持って臨むことが出来た事は緊張を和らげる大きな要因だったと感じています。

他病院の同じ技師や他職種の発表も数多く聴くことが出来ました。どれもハイレベルで自分もまだまだ学んでいかなければならないと刺激を受けることが出来たのも大変有意義であったと思います。

診療放射線技師　宮崎　弘紀

今回初めてＪＣＨＯ学会に参加させていただきました。

「老健施設における医療薬品管理にオーダーリングシステムを取り入れて」という題で発表させていただきました。発表にあたり指導して頂いた先生方には深く感謝いたします。ドキドキしながら発表を終えて、個人的な反省点は多々ありますが、今後も経験を積み反省点を克服していきたいと強く感じました。

学会での演題には興味深いものが多々あり、地域包括・摂食嚥下・認知症・ターミナルケアと今、老健で注目されている内容を拝聴し、特別講演では羽生善治さんの話を聞くことが出来ました。今後の大きな学びとなりました。

附属老健看護師　大場　亜由美

附属老健　介護フェスティバルを実施しました！

日頃から、当施設をご利用いただき誠にありがとうございます。

今年も「介護の日（10月11日）」にちなみ、地域の皆様に施設を身近に感じていただくと共に介護への知識を深めていただくことを目的に、介護フェスティバルを実施致しました。

介護相談・簡易測定・非常食の試食・福祉用具の展示・オムツの展示・リハビリの説明と体験・口腔ケアの説明と展示・訪問リハビリの展示と説明・施設内見学・アトラクション（三菊会）等を行いました。特にリハビリや訪問リハビリブースでは、職員の説明に対し見学者からいろいろな質問ががあり、また「普段聞けない事や見られない所を見ることができ、とても良かった」との感想もいただきました。

無料ふるまい処では、喫茶や芋煮汁、おにぎり、焼きそば、芋もちが大好評で、「また来年も是非行ってほしい」との要望もいただきました。

これからも、地域のみなさまに気軽にご利用いただける施設となれるよう努めて参りますので、宜しくお願い致します。

附属老健サービス向上委員会　佐藤　薫

医大看護学部の実習

平成29年10月24日～11月16日まで、医大看護学部1年生の実習が行われました。

老健デイケアに於いて、利用者さんの送迎や施設での生活を見学し、ケアを通して利用者さんの生活や健康について、学生さん達に学んでいただきました。学生さん達にとっては、看護や介護の現場で初めて関わる対象者に対し、不安でいっぱいの実習だったと思いますが、みなさん、明るく元気に実習していました。今回の実習をきっかけとし、将来、一緒に仕事が出来ることを楽しみにしたいと思います。

附属老健実習担当　大場　亜由美

作業療法の作品をご覧ください！

リハビリの一環として手作業を治療手段とした作業療法があります。指先を使う折り紙や切り絵、ぬりえなどを日々行い、少しずつ快方に向けたリハビリを行っています。

患者さんの作品（作業療法の効果）を見ていただこうと正面玄関に展示しました。

作業療法士　大内　秀和

編集後記

「師走」のことばを調べると、家々で師（僧）を迎えて読経などの仏事を行うため、師が東西に忙しく走り回るため、「師馳（しは）せ月」といったのを誤ったものだとか・・・一年を反省し、新しい一年を迎えるために落ち着いて行動していきたいものです。

Y・M記